

研究授業「家庭支援論」についての考察

田中弓子<sup>1</sup>

Consideration on an Open Class “Home Support Theory”

Yumiko Tanaka

要約

本稿は令和元年（2019年）度第2回保育学科研究授業の考察である。当該授業科目（家庭支援論）における本時のテーマを「保護者（母親）を知ることからできる支援」とし、講義を進めた。その他、受講生の理解を高める為の授業上の工夫も「春日の里の知恵袋-保育学科のティーチング・ティップス」を参考に行った。

キーワード 授業公開、研究授業

(Abstract)

This paper is the consideration of an open class performed in Department of Early Childhood Care and Education in the Takamatsu Junior College on November 8<sup>th</sup>, 2019. The main topic of this lecture was to examine the support that can be provided by knowing the mothers of schoolchildren. This plan refers to “Teaching tips” in the Department of Early Childhood Care and Education at Takamatsu Junior College.

Keywords: open class, lesson research

はじめに

本稿は、令和元年度第2回保育学科研究授業「家庭支援論」の振り返りと考察である。

保育学科では、平成21年度にこれまでに実施した研究授業の蓄積に基づき「春日の里の知恵袋-保育学科のティーチング・ティップス」を作成、公開した。この資料を参考に、授業者も様々な点で授業改善に取り組みつつ、本研究授業を迎えた。

## 1. 研究授業の日程

### (1) 研究授業

日 時：令和元年11月8日（金）第2校時（10：40-12：10）

場 所：本学2号館 2101 講義室

科 目：家庭支援論

担 当：田中 弓子

受講生：本学保育学科2年次生

### (2) 授業検討会

日 時：令和元年11月15日（金）第1校時（9：00-10：30）

## 2. 「家庭支援論」の基本的性格

保育学科において「家庭支援論」は、「保育士資格（「保育の対象の理解に関する科目」）取得のための必修科目である。

シラバスで、授業者は次のように家庭支援論を紹介した。

*家庭支援論では、私的領域であった家庭内の子育てを、社会全体で支えるようになった背景について理解した上で、保育所を利用する親子のみならず、地域の親子までを視野に入れた支援のあり方について学んでいきます。*

「保育学科の目指す保育者像」に従い、具体的到達目標を次のように設定します。

- ・子育て家庭への支援者としての保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高める
- ・子育て家庭への支援者に関する継続的学習を通して人間性を育む
- ・家庭ならびに子育て家庭への支援に関する専門的知識や判断力を習得する
- ・現代的ニーズに対応した保育ならびに子育て支援を成し得る基盤を培う

## 3. 家庭支援論における指導上のポイントー「春日の里の知恵袋ー保育学科のティーチング・ティップス」を参考にー

### 3. 1 受講生の現状

保育士資格および幼稚園教諭二種免許状取得に必要な実習が全て終わった2年生後期に開講される科目である。授業を受ける態度としては、今年に限られたことではないが、学生の気の緩みがないとは言えない状況である。その現れとして、欠席学生が2年前期までに比べ増えてくる。加えて、本授業は、学生がこれまで学修してきた子ども中心の話題から保護者になる。卒業を控えた2年生にはより理解を求める内容であるため、本科目の重要性を伝えながらすすめる必要がある。

### 3. 2 静粛な環境

本授業担当者は、入学時から4セメスターまで本授業対象者の授業を担当している。よって、履修上の注意を全科目共通に行い、学生に注意を促している。主に、「遅刻・欠席の取り扱い」「携帯電話、飲食、私語の禁止」などである。また、授業時間中の机間巡視を心がけ、「学生が教員から見られている」という印象を持つことができるようにしている。

また、座席は指定しており、学生の状況を判断し、意図的なものである。ただし、明らかにその配慮が見える（学生が不快な思いをする）ことのないよう心がけている。

### 3. 3 授業上の配慮

授業ワークシートを配布し、そこに教員の板書を書き込むよう指導している。基本的には両面印刷の授業ワークシート1枚を配布としている。学生の自主的閲覧を期待した多種類の資料配布は、逆に学生の混乱を招く恐れがあるので、1枚に必要な情報をまとめるようにしている。また、学生に授業を受けた満足感を与え、必要事項が身につくように板書内容をパワーポイントにまとめている。さらに、学生の能力に鑑み、具体例を示し、視覚的、具体的に学生がイメージできるよう心がけている。さらに、本科目は講義形式の科目ではあるが、保護者対応に関する事例検討を毎回行い、学生の実践力強化にも努めている。

### 3. 4 実践のフォローアップ

本授業は、授業ワークシートの最後にあるコメント欄に、授業に関連する「まとめ内容」「次回授業に関する内容」等を記入させている。よって、毎回コメントの課題は異なる。それを担当者は確認し、学生の学びを知り、前後の授業内容の関連を持たせている。また、その内容の代表的なものを次回授業で話題にし、学生のコメントに答えるようにしている。

先述したとおり、事例検討に関する内容は、次回授業に必ず参考解答例に加え、解釈の基本も加えて説明している。

## 4. 家庭支援論の講義計画と本研究授業の概要

### 4. 1 家庭支援論の講義計画

- 第1講：家族の今とむかし
- 第2講：現代家族の状況（結婚）
- 第3講：現代家族の状況（家族の変化）
- 第4講：現代家族の状況（子育てにおける問題）
- 第5講：働く母親の現状
- 第6講：本時
- 第7講：子育て支援政策
- 第8講：家庭支援の基本姿勢
- 第9講：こども園教育・保育要領における家庭支援
- 第10講：保育所保育指針における家庭支援
- 第11講：要保護児童・家庭への支援
- 第12講：特別支援と家庭支援
- 第13講：さまざまな子育て支援サービス
- 第14講：指針に沿った事例検討
- 第15講：今後の家庭支援のあり方

#### 4. 2 本時の概要

本時の授業内容を計画するにあたって、次のような経験をした。本授業を担当しながら学生の保護者に関する話題に対する反応の薄さを肌で感じるようになっていた。ある時、学生から「家事って何ですか」「育児って何ですか」と言われた。その言葉にがっかりした気持ちになったものの、ほとんどの学生が保護者と同居し、子育てなど全くしていない（少子化時代の学生）状況であれば、当たり前という言葉と思えるようになった。この学生の疑問を解決しない限り、保護者支援というのは机上の空論に過ぎず、保育者として保護者支援することは難しい。

以下、時間区分等については資料（本時指導案）を参照してほしい。まず、導入では、前回授業を話題にし、低年齢児を育てる働く母親が少数である現実を確認し、展開につなげた。

続いて、展開部分では、保育所に保護者が迎えに来てから翌朝、保育所に登所するまでの家事および育児を学生が書き出す活動を取り入れた。学生に発表する機会を作り、それを確認した後、ある母親の家事および育児を紹介した。ずらりとならぶ仕事に学生から「多い・・・」という声もあった。

同じく展開で、保護者が保育者と話しにくいと思っている調査結果を紹介した。学生は保護者を怖いと思って面もあるが、保護者も保育者に距離があるという学生には意外な状況を提示した。この距離を埋めるものには何があるのかを、保護者の語りから学び、今後の保育者との関わり方の一助とした。

最後に、保護者をどのように支援していくかについてまとめた。

#### 5. 研究授業を終えての省察

本稿を参観していただいた教員の方々による授業検討会での発言内容や参観記録に従えば、「講義の内容構成」、「授業ノートなどの教材準備・使用方法」、「環境構成」、「授業者の講話や板書」について、概ね肯定的な評価が確認される。

他方で、講義の改善に関するいくつかのご示唆を頂いたことも確認しておきたい。まず、一つ目は、パワーポイントのコピーを学生に配布して授業を実施してみてはどうかという意見であった。学生の実態から、メモを取ることや、聞きながら学ぶことが難しいことから、資料すべてを配布することは控えるが、より理解を求めたい部分については、印刷して渡すようにしたい。

二つ目は、本授業で用いた論文を学生に配布してみてはどうかという意見であった。学生に論文の全てに目を通す機会をもつことは理想的であると思う。しかし、論文を読む、理解することが短大2年生の本学学生にとって容易なことではない。結果として、論文を配布しても使用されないことも大いに予想される。授業内容を理解するのも必死という学生も存在するからである。しかし、興味をもった学生も少なからずいるであろうから、希望者には配布できるようにすることも必要であると考ええる。

## 6. おわりに

保護者の実情を伝える方法を模索している時、学生から「家事って何?」「育児って何?」という発言を聞き、これを授業にいかしたいと考えた。ただ、感覚や感情で授業を行うことはできないので、教科書、公的データを探した。実習ではなかなか経験できない保護者対応に関することを座学で学ぶことは難しいが、本時の活動が、保護者目線の支援につながることを期待したい。どんなに授業内容を工夫しても、静粛な環境を保つよう授業者が誠心誠意取り組むことがなければ成立しない。ここを怠れば、内容豊かな授業をしても、学生には通じない。大学という場で、このようなことに力を注ぐことへの迷いがないわけではないが、やはり必要性を感じている。春日の里の知恵袋－保育学科のティーチングティップス－の内容が後押しとなった。

また、学生が有資格者として多様な保護者が抱える問題の背景に目を向けられるよう、子育て支援者としての考え方を身に付けられるよう、授業を進めていきたい。

本稿の最後に、研究授業にご協力いただいた受講生（保育学科2年次生）、ご参観いただき、授業検討会や参観記録で貴重なご意見をいただいた教員の方々に深謝の意を示す。

## 7. 参考文献

- ・田中弓子（2012）「働く母親が子育てと仕事の両立の上で抱える苦悩」高松大学・高松短期大学『研究紀要』56・57.
- ・高松市（2015）『高松市すくすく子育てプラン』
- ・坂上裕子（2017）「子どもの幼稚園入園という移行体験を母親はどのように支えているか」日本保育学会『保育学研究』55(3).

- ・厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説書』フレーベル館.
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館.

<資料：第6講指導案>

令和元年度第2回研究授業

令和元年11月8日

### 「家庭支援論」第6講

—保護者（母親）を知ることからできる支援—

担当：田中 弓子

#### 本時の目標

- ・子育ての中心となっている母親の生活（家庭および職場）を具体的にイメージできる。
- ・子育て家庭への支援者としての使命感を高めることができる。

#### 受講生

保育学科平成30年度入学生（2年次）、座席指定

#### 科目の性格および単位数

保育士資格取得必修科目、2L

#### 授業計画および本時の計画

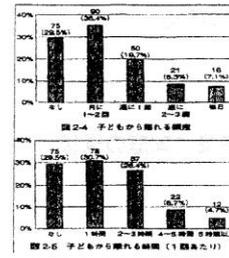
第1講：家族の今とむかし	・ <u>10:40</u> 連絡事項 保護者の会の連絡
第2講：現代家族の状況（結婚）	・ <u>10:50</u> 子育て家庭の現状
第3講：現代家族の状況（家族の変化）	前回の振り返りを行いながら、低年齢児を育てる働く母親が数少ない現実を確認する。
第4講：現代家族の状況（子育てにおける問題）	・ <u>11:05</u> 低年齢児を育てる少数派となる働く母親の生活と何か？
第5講：働く母親の現状	家事育児とは具体的に何があるのかを把握することで、忙しく生きる働く母親理解につなげたい。（グループワークあり）
第6講：本時	・ <u>時間</u> に余裕があれば 職場や家庭で起こっていること
第7講：子育て支援政策	働く母親の生の声を紹介（状況により省略・短縮あり）
第8講：家庭支援の基本姿勢	・ <u>11:20</u> 3歳未満の母子分離の状況
第9講：こども園教育・保育要領における家庭支援	ここから子どもの園生活と家庭支援について考える。保こ幼どこに入園しようとも、入園までの母子密着生活があり、それにより子どもの入園に対し母親の不安が大きいくことにつなげたい。
第10講：保育所保育指針における家庭支援	・ <u>11:30</u> 入園後の子どもの様子と家庭での対応
第11講：要保護児童・家庭への支援	不安でいっぱいの子どもの様子を説明。
第12講：特別支援と家庭支援	・ <u>11:45</u> 子どもをめぐるジレンマに母親はどのように対応？
第13講：さまざまな子育て支援サービス	研究結果および調査結果においても保護者にとって保育者は話しにくい（相談しにくい）人であることを説明。保育者からの積極的行動で保護者と保育者間の関係が変わることを感じられる機会になって欲しい。
第14講：指針に沿った事例検討	・ <u>12:00</u> どのように対応するのか？
第15講：今後の家庭支援のあり方	授業のまとめを行う。 保護者の会の質問事項作成

#### 使用テキスト

保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、（参考テキストを提示）



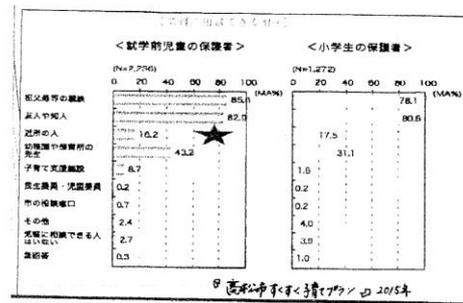
4. 3歳未満の母子分離の状況



5. 入園後の子どもの様子と家庭での子どもへの対応

母親が捉えた入園後の子どもの様子

入園後の母親の感情



6. 子どもをめぐるジレンマに母親はどのように対応？



7. どのように対応するのか。

---



---



---



---